

3.11を忘れない

INORINO KIZUNA

祈りの絆

第41号

2016年12月14日 全国発送

日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会 <http://www.bapren.jp>

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教学人日本バプテスト連盟総務部

2016年11月22日午前5時59分、福島県沖（いわきの東北東約70キロ沖）を震源とするM7.4の地震が発生しました。この地震により福島県、茨城県、栃木県で震度5弱を観測しました。2011年の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の余震とみられるとのこと。この地震で福島の多くの方々の頭をよぎったのは「原発は大丈夫か!？」との不安でした。その中で、東京電力福島第二原子力発電所の使用済燃料冷却機能が停止したとのニュースが流れました。その時、郡山コスモス通りキリスト教会がとった対応をご報告します。

その日 福島は

11月22日午前5時59分、地震。急いでニュースをつけると、「福島中通り、福島浜通り、茨城北部、栃木北部で、震度5弱の地震が発生。震源地は福島県沖、いわき、方位東北東、距離60km、震源の深さ10km、地震の規模を示すマグニチュードは7.3と推定される。」と放送。そしてすぐに津波警報が太平洋沿岸に発令された。「福島沖？津波警報？」頭の中で二つの言葉がぐるぐると回る。でも、2011年3月11日以降、何度も震度5弱は経験しているし、津波警報が出されたこともあった。でも、震源地は福島沖ではなかった。でも、第一原発から58キロ離れた郡山だから津波の心配はない。でも原発は？と「でも、でも、でも」と今度はこの言葉が頭の中をぐるぐる回る。教会員の安否を教会のラインで問いかけると「大丈夫です。無事です」「市内の高校は休校」「電車は運休」と次から次に応答してくれた。ラインに入っていない教会員には電話やメールで確認。全員の無事を確認できてホッとしつつも原発が心配になってきた。ネットで調べ始めると「6時10分福島第2原発3号機使用済燃料プール冷却浄化系ポンプ自動停止[冷却停止]」の情報を見つけ、目を疑った。不安をあおらないか気になりながら、「余震と原発が気になるからガソリン満タン。冬タイヤに交換しているかどうか、早めに交換するように。連絡網を携帯。落ち着いて行動しよう!」と再連絡。仮設の支援員さん

や、仮設から復興住宅や沿岸部に引越した方たちに安否確認の連絡、「今、避難しているところ」と涙声の緊張した声が返ってくる。もし、第2原発に何かあれば250キロ圏外へ避難。不測の事態を想定して、現在の風向きを調べ、新潟方面に避難することを確認。福島第一原発、第2原発付近、郡山市内の可搬型モニタリングポストの線量は変化なしとのこと。原発課題班と東日本大震災被災地支援委員会の委員長、事務局長に連絡。もし、今すぐ原発が爆発したら放射能が郡山に流れ始めるまでに24時間。あわてて避難しても交通渋滞に巻き込まれる。高齢の教会員、高齢の家族がいる教会員。障害のある教会員、乳児がいる教会員…。祈りに力が入る。そうしているうちに「7時47分 3号機使用済燃料プール冷却浄化系ポンプ再起動。[3号機の自動停止はスキマサージタンク (skimmer serge tank) の水位低下警報が動作した。停止時のプール温度=28.7℃。燃料プールの温度上昇率は0.2℃/hと評価され、保安規定の運転管理上の制限値(65℃)までは約7日間の余裕あり]」のニュース。原発課題班の方々からも「大丈夫」との連絡をいただいた。この5年半「避難」このことをずっと考えてきた。5年半たってもやはり「避難」なのか。あれから結局なにも変わっていない。「非常事態宣言」が出されていることの意味を体感した一日だった。

郡山コスモス通りキリスト教会 金子千嘉世

「野中先生！地震があって、福島第2原発の使用済み燃料プールの冷却が停止しているって。どうしたら良い？」。郡山コスモス通り教会の金子千嘉世牧師からの電話で目が覚めました。驚いてテレビをつけると「2016年11月22日05時59分ころ地震がありました。震源地は、福島県沖で、震源の深さは約10km、地震の規模(マグニチュード)は7.3と推定されます。」と気象庁が発表していました。また福島第二原発3号基の使用済み燃料プールの冷却ができなくなっている事も報道されていました。状況から判断してすぐに郡山に折り返しの電話をし「使用済み燃料プールの冷却系のトラブルで、『3・11』の場合と比べると、核燃料からの熱放出量が圧倒的に少ないであろう事、冷却水が抜けているわけではない事から考えると、今すぐに使用済み燃料プールの冷却水が蒸発して燃料が空气中に露出するという事はなさそうなので、ひとまず落ち着きましょう。」、そして「今は風向きが大陸から太平洋に抜けている状況なので、万が一の時の避難は新潟方面が良いだろう」と話し合いました。幸いに？冷却プールの冷却装置の運転は再開されたので、ひとまず危機は去り、胸をなで下ろしました。福島の方々はさぞ恐かっただろうと思います。

います。また用向き不明なプルトニウム確保のための、未完の「核燃料サイクル」を手放そうとはしない姿勢を鮮明にしています。それもこれも原発プラントの海外輸出ビジネスと、密かな核武装の目的のためだとは考えられません。この政府と「原子カムラ」の動きは「3・11」をなかった事にするという動きと連動しています。けれども11月22日の地震の出来事が明らかにしたとおり、いまだ東京電力福島第一原子力発電所における原子力緊急事態宣言は発令中であり、しかも今回のトラブルは第一ではなく、福島第二原子力発電所内におけるものであった事を考えれば事態は何も変わらないどころか、かえって「事故は何処で何時起きてもおかしくはない」という事を証明した事になります。私たちが「3:11」を忘れずに祈り続けるという事は、いつも福島の人々をはじめとする東日本の人々が危機的な状況にあり続けているという事を心に刻む事です。決して政府や「原子カムラ」が画策するように、「3・11」を終わったことにしてはならないと思います。そして原発がある限り「緊急事態」は、日本は無論のこと、世界のどこにいても「いつもそこにある危機」である事を心に刻み続けなければなりません。

今、政府及び「原子カムラ」は、各地の原発を次々と再稼働させて

鳥栖キリスト教会 野中宏樹(公害問題特別委員長・原発課題班協力委員)

東日本大震災被災地支援委員会原発課題班は、郡山コスモスキリスト教会が進めている「原発事故時の避難マニュアル」(仮称)の整備に協力しています。また、有事の際の避難は「てんでんこ」で逃げることを基本としていますが、福島から全方位で、受け入れの意思表示をしてくださる教会・伝道所を求めています。ご協力をお願い申し上げます。



東日本大震災募金にご協力ください 募金目標額：600万円(国内・国外)

2016年11月までの実績 395万円

<2016年10~11月募金者(受付順、敬称略)> 19名(口)の方々から献げられました。心から感謝申し上げます。

中野、調布、市川八幡、太田、久保祐子、シンガポール国際日本語、古賀、高須、秋田、赤塚、調布、東大阪、高知伊勢崎、関西黎明、古賀、福岡、市川八幡、大宮、枝光